

3. 木製はきもの類のデザイン開発並びに試作研究

坂本 晃* 高野あや* 玉造公男*** 北嶋俊朗**

1. 目的

一昔前まで、木製はきものは生活に密着した必需品であったが、最近では生活の中で使われなくなってきている。生活の洋風化にともなう生活環境や嗜好の変化、他の素材の履物技術の進歩による高品質化が理由と考えられる。

しかし、生活の洋風化は表面的な現象であり、日常的な生活習慣では日本文化がしっかり受け継がれていることは周知の事実である。木製はきものを現代の生活に合うようにデザインすることにより、木製はきものにしかないメリットを生活に再度生かすことは、充分意義のあることと思われる。

そこで、本研究では、生活者ニーズを把握し、より現代の生活にあったデザイン開発を行い、これを木製はきもの業界に提示することにより、新しい市場展開を図ることを目的とした。

2. 方法

2.1 デザインコンセプトの設定

2.2 デザインワーク

2.3 試作

3. 結果

3.1 デザインコンセプト

(1) Aグループ

・ターゲット：30代男女で、都会的センスを持ちながらも、仕事等でストレスを感じている人々

・生活場面：一般住宅における洋風の室内

*デザイン研究室**加工技術研究室***塗装技術研究室

・キーワード：自然、リラックス

・コンセプト：足裏は板間感覚

・形、材質の特性：シンプルな形、暖かみのある形、エンボス加飾（昨年度、当所の技術開発）を施した杉、新しいバンドの開発

・色、イメージの特性：ナチュラル（写真A-1）、モダン（写真A-2）

(2) Bグループ

・ターゲット：30代後半の男女で、エコロジーに関心があり、感度の高いファミリー派

・生活場面：一戸建て住宅の庭周り及び近所の自然散策

・キーワード：自然観察と快適歩行

・コンセプト：健康な足になるための快適な履物

・形、材質の特性：杉材にエンボス加飾を施し、木目を強調。前後二つのパーツに分け、歩行に合わせて曲がる構造

・色、イメージの特性：ナチュラル（写真B-1及び2のクリヤ塗装）、エレガント（写真B-1及び2のあや塗）

3.2 デザインワーク

デザインコンセプトをもとに、アイデアの展開、取れん、評価及び設計を行った。

3.3 試作

設計に従い4種8点を試作した。

使用した素材は、すべて杉材をマイクロ波照射し、硬質ゴムで圧縮加飾したもので、木目を強調した。（平成2年度業務報告書参照）

写真A-1は、家庭的なかんじをもたせ、新

しいバンドの取り付け法として、木部に小さな穴を開けバンドを紐で縫合する方法を考案した。形状的には、左右のバンドが一連のうねりに見える視覚効果を狙った。塗装は、クリヤ塗装とあや塗を施した。

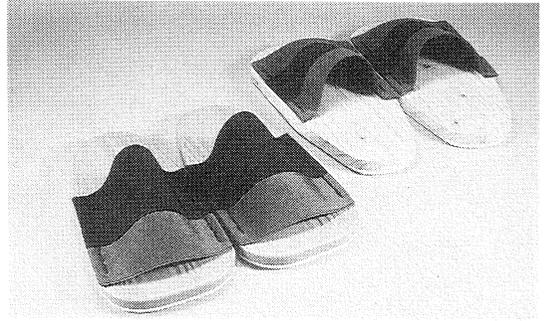
写真A-2は、都会的な感じにまとめた。新しいバンドのアイデアとしては、バンドと鼻緒両方の機能をもたせたものを考案した。塗装は、カラークリヤ塗装と、あや塗を施した。

写真B-1及び2は、足の関節の動きに着目し、快適な歩行ができるように、柔軟性をもたせる工夫を行った。木部は二つのパーツからなるようにし、発砲ウレタン及び裏ゴムで連結した。塗装は、それぞれのどかな感じのクリヤ塗装（ステイン着色）と、優雅な感じのあや塗を施した。

4. 考 察

今回の開発は、「生活」をふまえて「快適さ」をめざした結果、現時点では満足のいくものとする事ができた。この結果をもとに研修会を開催し、業界に提案して活性化の一助とするつもりである。

履物、特に木製はきものは素材の材料物性にもとづく諸制約から、新製品の開発は非常に難しい面がある。しかし、木製はきものには、捨てがたいものがあるため、生活の中でもっと愛用されるように、より良い製品の開発を進めたい。



写真A-1



写真A-2



写真B-1



写真B-2